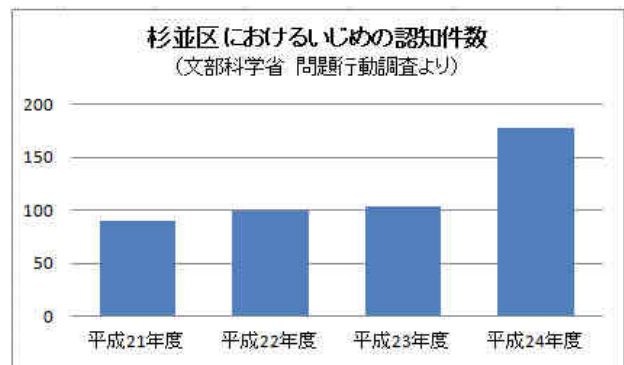




「杉並中学生生徒会サミット」開催

26日(土)、勤労福祉会館(杉並区桃井 4-3-2)で、現在、社会問題となっているいじめの根絶を図ろうと、区立中学校の生徒が自ら立ち上がり、解決策を話し合う「杉並中学生生徒会サミット」が開催されました。会場では、区立中学校全 23 校の代表生徒が、いじめをなくすために各学校で検討した取り組みを発表するとともに、来場者およそ 300 人といじめ問題の解決に向けて白熱した議論を展開しました。

2011年、大津市のいじめによる自殺が大きく報道されるなど、現在、学校におけるいじめが社会問題になっています。杉並区でも平成24年度調査では、中学生のいじめの認知件数は178件(右グラフ参照)とやや増加傾向となっており、深刻な状況です。



「杉並中学生生徒会サミット」は、「自分たちの身の回りで起こっているいじめは、自分たちで解決しなくてはいけない」と区立中学校の生徒が自ら立ち上がり、いじめ問題解決のために何かできることはないかと考え

行動を起こしたことから昨年実現しました。2回目となる今回は、挨拶や思いやりの言動「しぐさ」を中心とした、いじめの解決策について議論しました。

サミットの前半は、各学校でまとめた取り組みの発表が行われ、「されてうれしい行動」を模造紙に書いて掲示したり、人から受けた厚意をその相手に返すのではなく別の誰かにすることで繋がっていく「ペイ・フォワード運動」などのユニークな発表がありました。後半は、パネルディスカッション形式で、代表4校の生徒2人ずつ、合計8人が中心となって、いじめ問題解決に向けた議論を行いました。議論は、代表以外の客席にいた生徒からも、自身が受けたいじめにもとづく意見などが次々と出され、白熱したものとなりました。

また、このディスカッションには、自らもいじめを受けた経験がある元バレーボール日本代表の三屋裕子さんがコーディネーターとして参加しました。三屋さんは最後に「大人でも解決できない問題に中学生が正面からぶつかっていく姿勢はすばらしい。自分の他人との違う部分個性として大切にしてほしい」と強く訴えていました。

区では、こうした中学生の積極的な姿勢を受けて、「すぎなみいじめ電話レスキュー」で相談に応じたり、スマートフォン用いじめ相談アプリを開発するなどして、中学生とともにいじめの根絶に向けて取り組んでいきます。